75　水産資源調査・評価推進事業等

【令和６年度予算概算決定額　5,183（5,925）百万円】
（令和５年度補正予算額（漁業調査船「蒼鷹丸」の代船建造 ）4,876百万円）

＜対策のポイント＞
海洋環境の変化を踏まえた高度な資源評価を推進するため、新たな技術を活用した調査船調査、漁船活用型調査、市場調査等を実施し、資源調査・評価の体制を強化することにより、**最大持続生産量（MSY）を達成できる資源水準の算定、資源水準及び資源動向の判断**、不漁を含む資源変動に対する**海洋環境要因等の把握**を推進します。

＜政策目標＞
資源評価の精度向上（MSYベースの資源評価対象系群数）（38系群［令和6年度］ → 43系群［令和10年度まで］）等

＜事業の内容＞

1．データの収集及び資源調査

資源評価対象魚種の資源評価精度を向上させるため、都道府県水産試験研究機関及び大学等とも連携・協力し、調査船、漁船活用型調査、画像処理技術も活用した市場調査等を行い、資源水準及び資源動向の判断並びに最大持続生産量（MSY）等の把握に必要となる生物学的情報、主要産卵域の再生産情報、年齢別の漁獲情報等を収集し、資源評価等を実施します。

2．海洋環境要因の把握（不漁要因の解明等）

スルメイカ、サンマ、サケ等の不漁を踏まえ、調査船や観測ブイ、水中グライダー等を利用し、分布域の変化、産卵場や稚魚の発生、餌料環境並びに水温及び海流等の情報を収集し、海洋環境と資源変動及び漁場形成との関係解明に取り組みます。

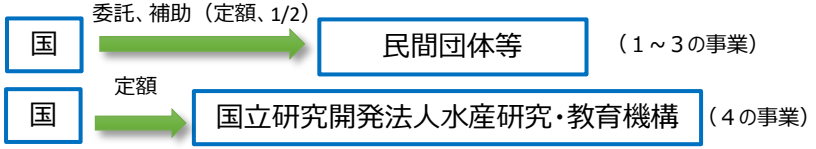
3．資源評価の精度向上、理解促進等

資源評価手法の高度化及び資源評価精度の向上等を図るため、二国間・多国間の枠組みを活用した研究連携を推進し、調査・研究に取り組みます。また、資源評価手法及び評価結果の理解促進のための情報提供等を行います。

4．（国研）水産研究・教育機構の漁業調査船の代船建造

漁業調査船「蒼鷹丸」について、高まる資源調査のニーズへの対応と様々な海域や気象・海象下における確実かつ効率的な調査の遂行のため、代船を建造します。

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞

水産研究・教育機構、都道府県、大学等が共同で実施

○データの収集・資源調査
・国、都道府県が連携して**調査船調査や漁獲報告**により情報を収集
・**漁船活用型調査や市場調査**等を充実させ、漁業者等からの情報を収集
・NPFC等、**我が国の漁業に強く関係する国際資源管理魚種**の資源や生態の情報を収集
・漁業資源に変動を及ぼす環境要因の調査　等

○漁業調査船「蒼鷹丸」の代船建造
・高まる資源調査のニーズへの対応
・様々な海域や気象・海象下における確実かつ効率的な調査の遂行
・建造後約29年経過し、安全な運行と調査の実施に支障

↓

蒼鷹丸の代船を建造

MSYベースによる資源評価	**資源水準・資源動向による**資源評価	**国際資源の**資源評価
○MSY水準に基づく資源状態の判断 ○生物学的許容漁獲量(ABC)の算定等	○資源量指数等の分析 ○資源水準・資源動向の判断	○調査船調査の結果も含めた資源水準・資源動向の解析

○資源評価結果の活用
・資源量、漁獲の強さといった**MSYベースの資源評価**を提供
・生態や資源水準の情報を地域に提供し、**自主的な取組である資源管理協定等**に活用
・我が国の漁業に関係する**公海域などの国際資源管理**の強化

［お問い合わせ先］　（１～３の事業）水産庁漁場資源課（03-6744-2377）
（４の事業）　研究指導課（03-6744-2370）